

じゅうしょうねっせいけっしょうばんげんしょうしょうこうぐん
重症熱性血小板減少症候群

SFTS

SFTSV 遺伝子検査



重症熱性血小板減少症候群とは、SFTSウイルスに感染することで引き起こされる病気です。SFTSウイルスは、ブニヤウイルス科フレボウイルス属に分類される、三分節1本鎖RNAを有するウイルスで、マダニで維持されており、主にこのウイルスを保有しているマダニに刺咬されることにより感染するダニ媒介感染症です。SFTSに感染した犬猫との濃厚接触によって人への感染も報告され、感染者の致死率も10～30%と高いことから注意すべき感染症の一つとなっています。

また、国立研究開発法人日本医療研究開発機構（AMED）研究班の報告によると、2025年6月30日時点の猫と犬のSFTS発生状況は、「猫：1,112頭、犬：73頭」と特に猫での感受性が高い感染症です。

症 状

発熱や元気消失、食欲不振が見られます。検査所見としては、血小板減少、白血球減少、高T-Bil血症、CK上昇、SAA上昇などが特徴的です。特に猫は重篤な症状を呈します。

潜 伏 期

6～14日

診断方法

診断は時期、地域（西日本に多い）、ダニの刺咬歴や飼育環境、臨床兆候、血液検査所見（血小板減少、白血球減少）から疑います。臨床症状や血液検査だけではSFTSの確定診断には至らないため、**ウイルス学的検査の実施**が必要とされています。

※急性期にはウイルス遺伝子の検出が有用

検査のタイミング

猫での致死率は60%程度とされています。

猫の場合経過が早く急激に悪化して、発症から7日以内に死亡するケースが多いため、PCRのタイミングは早い段階（初診時）で実施するのが望ましいです。血中のウイルスが検出された場合、SFTSVに感染していることが分かります。ただし、病期が進んだ状態でPCRが陰転した経験もありますので、PCR検査が陰性の場合でもSFTSを完全に否定できず、抗体検査が必要となる場合があります。また、尿からウイルスが検出されたケースもありました。

- 注**
1. PCR検査は結果が陰性でも感染を完全に否定するような検査ではありませんのでご注意ください。
 2. 症状的に怪しい場合は遺伝子検査のみならずIgM検査を実施することを推奨します。

受託検査の内容

検査項目 SFTSV遺伝子検査

測定方法 RT - PCR

検査材料 EDTA血漿（不活化液入り容器※1にて提出）

検体量 0.1ml

保存方法 室温（不活化液入り容器に入れて保存した場合）

※不活化液入り容器ではなくプレーンのチューブ等で保存する場合は冷蔵保存をお願いいたします。

報告日数 5営業日以内

結果判定 陰性（－）

●検査依頼書は弊社ホームページよりダウンロードできます。

検査送付用キット（3重包装）

- 検体容器（不活化液入り容器※1）
- 吸水袋
- 検体包装袋
- 段ボール
- セキュリティシール

（WHOの感染性物質の輸送規則に関するガイダンス2013-2014版に準じたカテゴリーB包装）

上記検査キットは有償にて送付させていただきます。
ご入用の際は弊社までご連絡ください。

- 検体容器について
不活化液入りの専用容器がない場合は、EDTA血漿0.1ml以上を必ず冷蔵便にてお送りいただきますようお願いいたします。